

熊本の冬

羅子城

LUO ZICHENG

「冬になったら、もっと食べるべきよ！さもないと、寒さに負ける。」

おばあちゃんは白く老いた手で、焙煎した赤いサツマイモの皮を剥く。真っ黄色の中身から、温かくていい匂いの湯気が出てきた。彼女は芋を二つに分けて、小さな塊を自分のために残し、大きな塊を私の手に詰め込みこませた。私はおいしく食べ、口元にはたくさんの芋が付いた。これは私が子供の頃の、冬の甘くて暖かく、散らばった思い出だ。

当時、私はまだ幼かったため、多くの記憶はもう思い出せない。しかし中国の東北部の冬はいつも寒かったことは印象深い。空気は寒く、河川は凍り、街は真っ白な雪に覆われている景色が当たり前のように記憶に残っている。

その後、私はゆっくりと育ち、高校卒業と同時に故郷を離れ、隣国の日本へ留学に来た。私の大学は日本の南部、熊本という美しい地域にある。人々が行き交う東京のような大都市と違って、熊本のリズムは割と遅く、まるで空の白い雲のように、時間がゆっくり流れている。

熊本の人たちはとても親切で、関西の人のユーモアや関東の人の真面目さはないが、人と人との真の友好がある。これも、熊本の魅力であるかもしれない。それだけでなく、山、川、天気、どれも私にとって気持ちが良い。

実は、熊本の四季はそこまで明確に分かれているものではない。季節と季節の境界が曖昧なのだ。特に熊本の冬はよく「あんまり寒くないね」と言

われる。それほど寒くはないが、天気は「冬」という言葉に敬意を表すため、少し寒くなる。なので、熊本の人々の服装、食べ物なども季節に応じて変化していく。

服装に関しては、男性はダウンジャケットより、ウインドブレーカー、コート、スーツジャケットをよく着ている。女性の場合は、コートとスカーフが一般的である。もちろん、季節の変換を無視し、いつもおしゃれな服をしている若者も少なくない。

食べ物に関しては、どの地域だとしても、冬が来たら温かい食べ物を食べたい。コンビニでは、おでんや中華まん、温かいドリンクの販売が始まる。家族が集まって、お鍋料理などを食べる頻度も増える。また、日本のお正月は1月1日のため、さまざまなスーパーで「おせち料理」と呼ばれるお正月のお弁当が数多く出てくる。それは、さまざまな食材を使ったフードギフトボックスである。それはとても素敵で、また来年がおせちのように素敵に色鮮やかになるよう願いが込められている。

熊本の冬は、空はまだ青く、植物にも緑がある。にぎやかな通りでは、来春への期待に満ちた人々が行き交う。温かい肉まんを持って熊本城の下の公園のベンチに座り、城の周りに流れる坪井川を眺めて、私は心の中でこう言った：

「ふんわりと粉雪が降り、やさしい冬が訪れる。来年は素晴らしい一年間になりますように。」